

令和7年度学習力サポートテスト実施結果について

1 学習力サポートテストの概要

(1) 目的

児童・生徒の基礎的・基本的な学習内容の定着状況と問題解決能力等を把握し、児童・生徒の学習の動機付けにつなげる個に応じた指導の充実と教員の指導力向上のため、区独自のテストを実施し、その活用を図っていく。

(2) 実施概要

前年度の学年で履修した内容のうち、各教科の基礎的・基本的事項及びその活用に関する領域別・観点別の学習状況についての調査、児童・生徒の生活及び学習に関する質問紙調査を行った。

①実施日

小・中学校、宇佐美学園 令和7年5月8日（木）

②対象学年・教科等

小学校	第4・5学年	国語、社会、算数、理科、質問紙
	第6学年	国語、社会、算数、理科、英語、質問紙
中学校	全学年	国語、社会、数学、理科、英語、質問紙

③実施児童・生徒数

小学校	実施児童数	中学校	実施生徒数
第4学年	1,565名	第1学年	656名
第5学年	1,550名	第2学年	584名
第6学年	1,408名	第3学年	559名
計	4,523名	計	1,799名

(3) テスト結果の活用

- ①学習力サポートテストの結果の個人票を、学校を通じて個人面談等で本人及び保護者に配布し、一人一人の課題を明らかにするとともに、本人及び家庭における学習への取組を支援する。
- ②各学校において、学習力サポートテストの結果分析を基に学力・体力向上プランを修正し、2学期以降の授業に反映させるとともに、個に応じた指導の充実を図る。

2 学年・教科別平均正答率

※全国平均正答率は、全国の中で本調査を受検した児童・生徒のデータを基に算出した平均正答率

※（ ）内は令和6年度平均正答率

(1) 小学校 (％)

第4学年	国語	社会	算数	理科
区平均正答率	76.2 (79.6)	75.7 (72.3)	81.0 (80.8)	62.1 (61.9)
全国平均正答率	66.8 (73.4)	69.1 (66.8)	72.4 (72.1)	56.7 (55.2)

- ・国語の区平均正答率は76.2%で、全国平均正答率を9.4ポイント上回った。
- ・社会の区平均正答率は75.7%で、全国平均正答率を6.6ポイント上回った。
- ・算数の区平均正答率は81.0%で、全国平均正答率を8.6ポイント上回った。
- ・理科の区平均正答率は62.1%で、全国平均正答率を5.4ポイント上回った。

(%)

第5学年	国語	社会	算数	理科
区平均正答率	75.9 (76.1)	73.8 (68.8)	76.7 (74.7)	65.4 (67.4)
全国平均正答率	66.2 (64.9)	64.8 (59.7)	67.9 (64.0)	59.5 (60.7)

- ・国語の区平均正答率は 75.9% で、全国平均正答率を 9.7 ポイント上回った。
- ・社会の区平均正答率は 73.8% で、全国平均正答率を 9.0 ポイント上回った。
- ・算数の区平均正答率は 76.7% で、全国平均正答率を 8.8 ポイント上回った。
- ・理科の区平均正答率は 65.4% で、全国平均正答率を 5.9 ポイント上回った。

(%)

第6学年	国語	社会	算数	理科	英語
区平均正答率	74.4 (76.1)	75.2 (70.6)	72.4 (73.3)	67.4 (64.2)	87.4 (82.9)
全国平均正答率	66.4 (67.2)	69.2 (62.8)	60.9 (61.7)	65.7 (60.3)	80.1 (77.0)

- ・国語の区平均正答率は 74.4% で、全国平均正答率を 8.0 ポイント上回った。
- ・社会の区平均正答率は 75.2% で、全国平均正答率を 6.0 ポイント上回った。
- ・算数の区平均正答率は 72.4% で、全国平均正答率を 11.5 ポイント上回った。
- ・理科の区平均正答率は 67.4% で、全国平均正答率を 1.7 ポイント上回った。
- ・英語の区平均正答率は 87.4% で、全国平均正答率を 7.3 ポイント上回った。

(2) 中学校

(%)

第1学年	国語	社会	数学	理科	英語
区平均正答率	68.4 (65.7)	54.6 (53.3)	73.9 (69.8)	51.4 (65.3)	87.9 (83.9)
全国平均正答率	64.5 (61.3)	53.5 (52.4)	66.8 (64.4)	52.6 (67.0)	81.4 (76.8)

- ・国語の区平均正答率は 68.4% で、全国平均正答率を 3.9 ポイント上回った。
- ・社会の区平均正答率は 54.6% で、全国平均正答率を 1.1 ポイント上回った。
- ・数学の区平均正答率は 73.9% で、全国平均正答率を 7.1 ポイント上回った。
- ・理科の区平均正答率は 51.4% で、全国平均正答率を 1.2 ポイント下回った。
- ・英語の区平均正答率は 87.9% で、全国平均正答率を 6.5 ポイント上回った。

(%)

第2学年	国語	社会	数学	理科	英語
区平均正答率	68.5 (67.7)	45.2 (48.2)	60.1 (58.6)	50.0 (54.0)	64.1 (62.1)
全国平均正答率	65.0 (65.1)	45.6 (50.0)	53.6 (54.7)	48.7 (56.0)	51.3 (52.7)

- ・国語の区平均正答率は 68.5% で、全国平均正答率を 3.5 ポイント上回った。
- ・社会の区平均正答率は 45.2% で、全国平均正答率を 0.4 ポイント下回った。
- ・数学の区平均正答率は 60.1% で、全国平均正答率を 6.5 ポイント上回った。
- ・理科の区平均正答率は 50.0% で、全国平均正答率を 1.3 ポイント上回った。
- ・英語の区平均正答率は 64.1% で、全国平均正答率を 12.8 ポイント上回った。

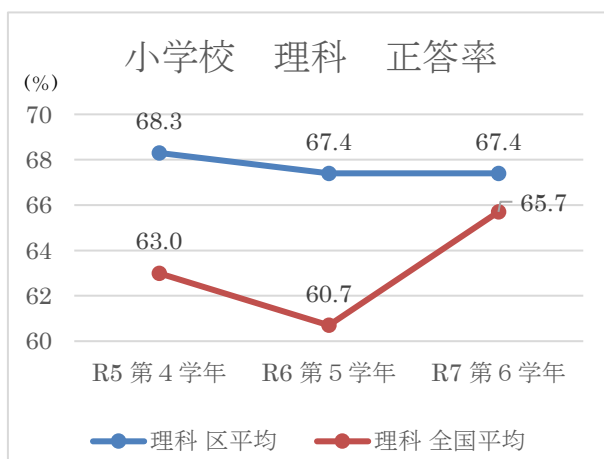
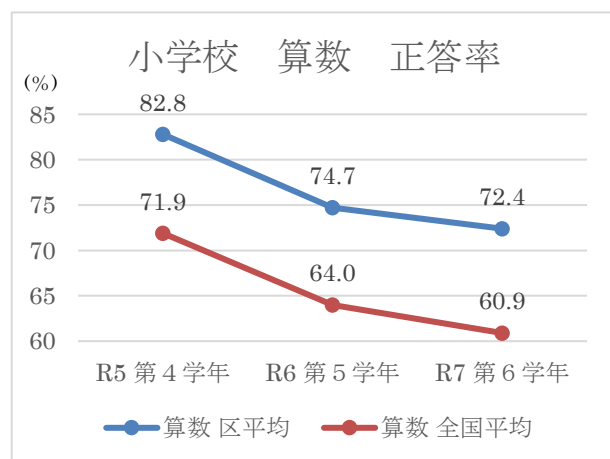
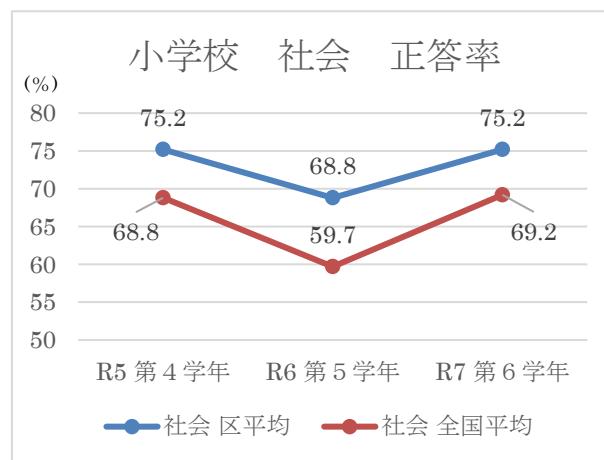
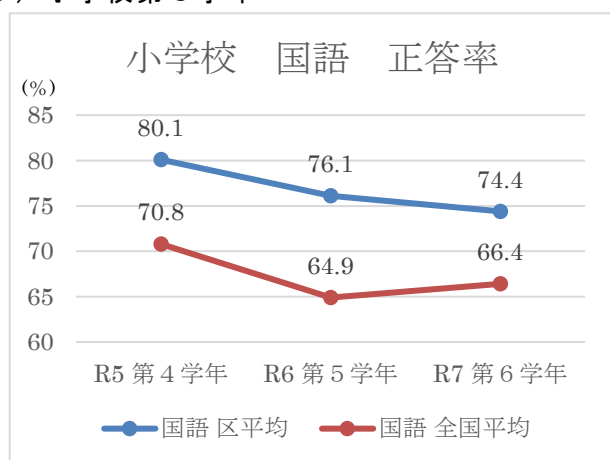
(%)

第3学年	国語	社会	数学	理科	英語
区平均正答率	64.6 (69.8)	41.6 (49.7)	57.5 (57.6)	48.8 (49.3)	61.6 (61.1)
全国平均正答率	61.3 (67.9)	45.1 (53.0)	52.5 (50.8)	50.8 (50.5)	52.2 (50.9)

- ・国語の区平均正答率は 64.6% で、全国平均正答率を 3.3 ポイント上回った。
- ・社会の区平均正答率は 41.6% で、全国平均正答率を 3.5 ポイント下回った。
- ・数学の区平均正答率は 57.5% で、全国平均正答率を 5.0 ポイント上回った。
- ・理科の区平均正答率は 48.8% で、全国平均正答率を 2.0 ポイント下回った。
- ・英語の区平均正答率は 61.6% で、全国平均正答率を 9.4 ポイント上回った。

3 同一集団比較による経年変化の結果と分析

(1) 小学校第6学年

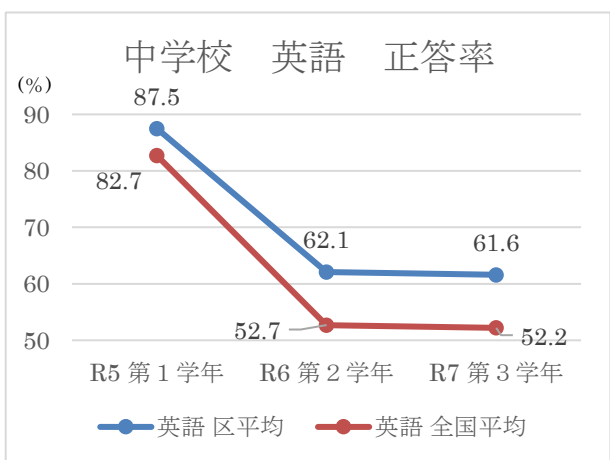
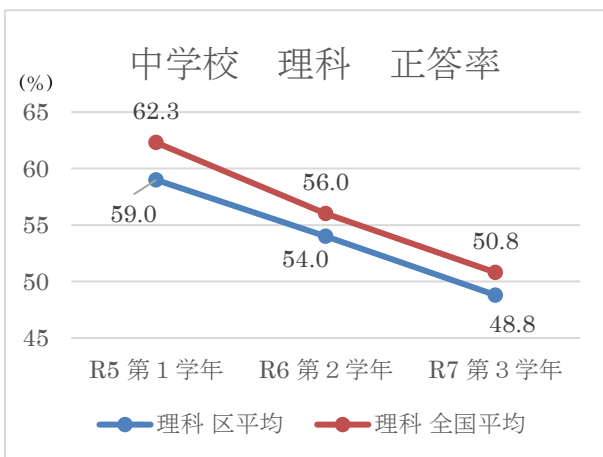
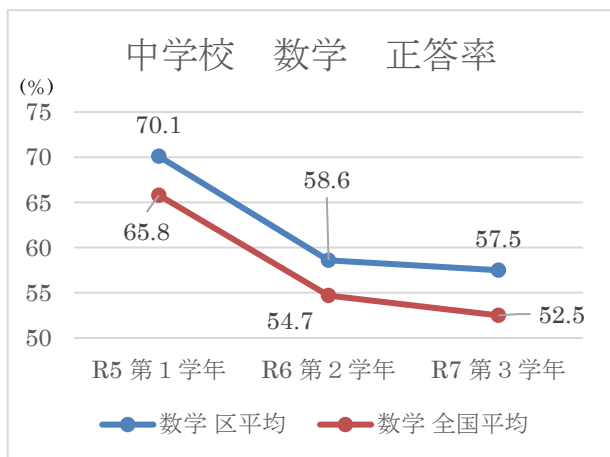
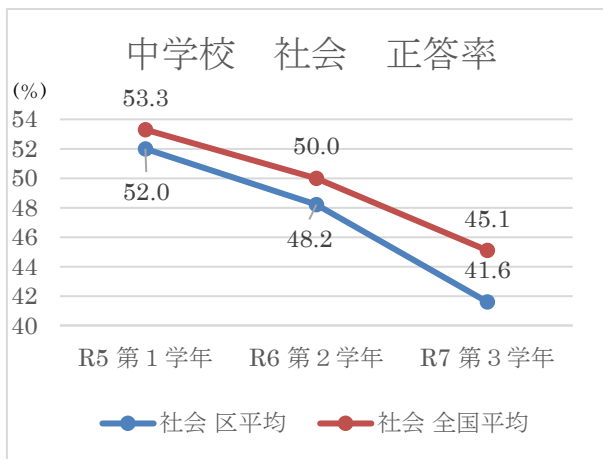
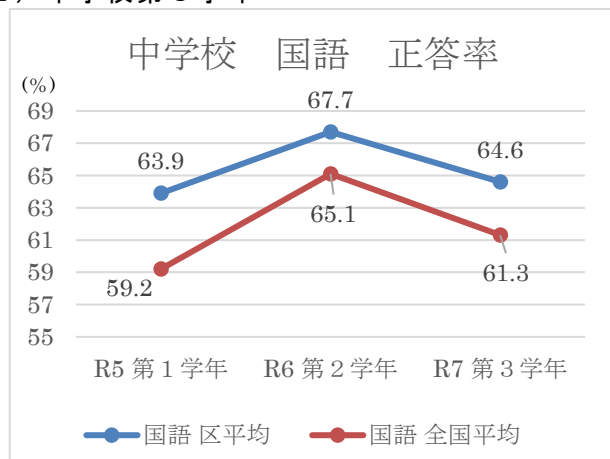


○算数は、経年比較した際に区の平均が全国平均よりも高く、全国平均との差が大幅に広がってきていることから、習熟度が高まっていることが分かる。

○社会や理科は、区の平均が全国平均より上回っているが、全国平均との差が縮まっている。

- ・社会では、地図や資料を読み取り、まとめる活動を積むことが必要である。
- ・理科では、知識の定着を図るとともに、実験を行う単元において、授業中に実験方法を考えさせて、それをノートに書かせたり、クラスで共有し討議したりする場面を設けるなど、児童が自ら考え説明する力を高める指導が必要である。

(2) 中学校第3学年



○社会は、区の平均が全国平均より下回っており、全国平均との差が年々広がってきている。

- ・地理分野については、地形についての理解を深める指導が必要である。また、歴史分野については、知識を定着させるとともに、資料を基に考察する力を高める指導の充実が必要である。

○理科は、区の平均が全国平均より下回っている。

- ・「電流と磁界」の出題においては、無回答の割合が全設問中で最も高く、知識や理解が十分に定着していない結果となった。また、「化学変化」や「気象の観測」では、用語の意味や使い方について理解していない場合が考えられたため、日々の授業の中で積極的に用語を使い、定着を図る必要がある。

4 質問紙調査について

(1) 質問数

質問紙調査は、「自己認識」、「社会性」、「学級環境」、「生活・学習習慣」の4つの大きいカテゴリーで構成されている。

「自己認識」に関する質問は、家族のささえ、先生のささえ、成功体験と自信など7つ、「社会性」に関する質問は、思いやり、対話・話し合いなど5つ、「学級環境」に関する質問は、学級の規範意識、いじめのサインなど4つ、「生活・学習習慣」に関する質問は、生活習慣、学習意欲など3つの小カテゴリーの中で、合計、小学校4年生は75問、小学校5年生～中学生は93問の質問がある。

(2) 質問紙調査結果概要（一部抜粋）

質問文		小4	小5	小6	中1	中2	中3
自己認識	先生のささえ	自分なりにがんばったことを、先生が認めてくれて、うれしかったことがありますか。					
		本当にづらいことがあったとき、それを学校の先生に相談できますか。					
		あなたの気持ちを分かろうとしてくれる先生がいますか。					
		先生はクラスのみんなのことを、ほめたり、はげましたりしてくれますか。					
社会性	対話・話し合い	学校の授業では、友だちと教え合う時間がありますか。					
		学校の授業では、となり同士やグループで話し合ったり、討論したりすることがあります。					
		グループで話し合う授業は楽しいですか。					
学級環境	いじめのサイン	クラスや部活で、冷やかされたり、からかわれたり、いやなことをしつこく言われたりすることがあります。					
		クラスや部活で、無視されたり、かげで悪口を言われたり、物をかくす・よごすなどの、いやがらせを受けたりすることがあります。					
		クラスの友だちから、いじめのさそいを受けたことがありますか。(メールでのさそいもふくむ)					
		同級生や上級生、他校の人などから、いやなことを無理やりさせられたり、ひどい乱暴を受けたりすることがあります。					
		同級生や上級生、他校の人などから、お金や物を持ってくるように言われることがありますか。(小5～中3)					
		SNS上で仲間外れにされたり、ひどいことを書かれたりして、傷ついたことがありますか。(小5～中3)					
		周りでいじめを見たり聞いたりして、心が痛むことがありますか。					
生活・学習環境	学習意欲	テストでまちがえた問題は、あとでやり直していますか。					
		ノートの取り方について、自分なりの工夫をしていますか。					
		好きな教科や授業がありますか。					
		学校で学んだことは、将来、社会に出たときに役立つと思いますか。(小5～中3)					
		最近、学校の勉強が難しくなったな、と感じることがありますか。(小5～中3)					
		あなたは、授業や日常生活の中で、不思議だな、どうしてだろう、と思ったことを調べていますか。					

※△…標準スコア全国平均50と比較して－2ポイント以下

○…標準スコア全国平均50と比較して±1～±2ポイント

◎…標準スコア全国平均50と比較して＋2ポイント以上

※数値は「iスコア」

※「いじめのサイン」については他の項目同様、価の高い方が良好（心配のない状況）

「iスコア」

4択の質問を対象に、各選択肢に次の配点で得点を与え、カテゴリーごとに算出した平均値（min1.0～max4.0）。児童・生徒の回答をそのまま点数化したものであるため、絶対評価的性格をもつ。最も望ましい／良好な選択肢（強い肯定）に「配点：4」、次に望ましい／良好な選択肢（弱い肯定）に「配点：3」、改善／配慮を要する選択肢（弱い否定）に「配点：2」、特に改善／配慮を要する選択肢（強い否定）に「配点：1」

「標準スコア」

カテゴリーごとのiスコアの全国平均を50とする偏差値として算出したもの。児童・生徒の回答を全国平均をもとに標準化したものであるため、相対評価的性格をもつ。

○小学校

- ・小学校４年生の「対話・話し合い」において、区の標準スコアが全国値より 2.1 ポイント下回った。話し合い活動の経験が少ないことが考えられる。授業において、話し合い活動や対話の楽しさを実感できる場面を積極的に取り入れていくことが必要である。

○中学校

- ・中学校１年生の「いじめのサイン」においては、区の標準スコアが全国値より 2.3 ポイント上回った。教師との信頼関係ができていると考えられる。また、小学校から中学校への情報の引き継ぎができおり、中学校入学直後に、いじめ防止や仲間づくりについて指導した成果によると考えられる。
- ・中学校３年生の「先生のささえ」においては、区の標準スコアが全国値より 2.4 ポイント上回った。教師と生徒の信頼関係が継続的に築かれていると考えられる。